

はじめに

パワーアップをめざそう！

「団塊の世代」と呼ばれた先輩たちが職場を去り、彼らが培ってきた組合活動の経験を、若い世代の組合員が学び、それを新たな時代の活動に活かしていくことが、医療労働組合運動にあっても重要な課題になっているように思います。

医療の労働組合は、他産業の労組に比べて比較的若い組合員が多く、数年の経験で、執行委員や書記長、委員長になる組合員も少なくありません。このことは、組合がフレッシュな力を活動に取り入れていくという利点とともに、経験不足から活動の停滞をまねくという側面も否めません。

もちろん、先輩たちの“遺産”には、引き継いで守り発展させなければならぬものと、現状から見て修正が必要な「負」の“遺産”もあります。若い仲間には、労働組合運動の理論書や実践書による学習と合わせて、先輩たちの経験を、現実の上に立って批判的に摂取し、それを実践によって自から一つひとつ確認していく姿勢が必要と思います。

組合運動を前進させることは決して容易ではありません。しかし、労働者は、それを前進させる潜在的な力を持っています。学習と実践を通して経験を積み、あせらず、コツコツと誠実に努力し、日々の活動に労働組合らしい筋を通した姿勢を貫くことによって、前進への「力」が培われていくことと思います。また、その「力」は、患者の立場に立つ医療を築く上でも、大きな力を発揮するものと思います。

ご承知のように、サッカーはチームの団結と個々の選手の高い能力が統一されて勝利できるスポーツです。労働組合も、前進するためには、組合の組織的な団結と共に、個々の組合員や役員のパワーアップが必要になり

ます。このパワーアップがなくては、労組の、そして日本の医療労働運動の飛躍はありえないと思うのです。

本書の「12章」は、医療労働組合運動のポイントをできるだけ簡潔にまとめようとした“試作品”にすぎませんが、これが一つの契機になって、組合活動強化への議論がさらに高まれば、私たち世代の組合運動への夢が受けつがれていくような気がします。

また『補章』（役員からのエール）では、その字のとおり、全国の62名の仲間が、各自の体験からにじみ出た味わいのある表現で、私のいたらない点を補ってくれました。ご多忙な折、急な依頼に快くお応えいただき、急ぎ原稿をお送りいただいたみなさんと、本書の編集と出版にご協力いただいた方々に心より感謝し、お礼を申し上げる次第です。

本書が、多くの組合役員や組合員に普及され、医療労働運動の前進に少しでも役立つことを、心より願っています。



宮城県・牡鹿半島にて（1979年7月21日 日本医労協東北ブロック青年交流集会の帰途に）

2011年12月

岡野孝信

目次

はじめに パワーアップをめざそう！	3
第1章 労働組合運動を知る	15
① 労働組合活動は、人生の貴重な経験の場	17
② 労使の利害の対立を正面から捉える	18
③ 労働組合は働く者の要求と権利を実現する組織	19
④ 酒場（パブ）での愚痴から始まった労働組合運動	20
⑤ 弾圧で解体された戦前の労働組合運動	21
⑥ 敗戦後の労働組合運動の発展と挫折	23
⑦ 「総評」の結成と、右派「同盟」の発足	24
⑧ 「安保」と「三池」のたたかい	25
⑨ 春闘の発足・発展・停滞	26
⑩ 「連合」と「全労連」の発足	27
⑪ 日本の労働組合運動の課題	28
⑫ 労働組合の組織形態	28
⑬ 企業別組合の長所と弱点を知る	30
⑭ 産業別労働組合（単産）の役割	31
⑮ 先進諸国と日本の組合員の意識の違い	32
第2章 医療労働組合運動を概観する	33
① 戦前の医療労働組合と争議	35
② 治安維持法と無産者診療所運動	36
③ 戦後——相次ぐ組合結成から全医協の結成へ	37
④ レッド・パーヅを乗り越え、医従協結成	38
⑤ 日本医労協の結成から日本医労連へ	39
⑥ 医療労働者の権利を守るたたかい	40
⑦ 入退院基準撤廃、付添制度廃止のたたかい	43

- ⑧ 健保改悪反対、診療報酬引き上げの運動 43
- ⑨ 社会保障闘争の夜明けを築いた朝日訴訟 45
- ⑩ 健保改悪反対全国キャラバンと共闘の前進 46
- ⑪ 賃金闘争と「病院スト」 47 ⑫ 看護制度一本化の運動 48
- ⑬ 「44 制」（週 44 時間労働制）のたたかい 49
- ⑭ 夜勤制限（ニッパチ）闘争 50
- ⑮ ナースウェーブと看護職員確保法制定 51
- ⑯ 山梨勤医協と、東葛飾病院の再建運動 53
- ⑰ 国立病院・療養所統廃合移譲阻止のたたかい 54
- ⑱ 業務委託反対のたたかいと病院給食 56
- ⑲ 日本医労連全国青年交流集会のスタート 58
- ⑳ 原水爆禁止世界大会と平和行進 59
- ㉑ 医療「合理化」とのたたかいの歴史 61
- ㉒ 医療労働運動の教訓と課題 62

第3章 組合運営の基本 65

- ① 民主的な運営を徹底する 67
- ② 組合の運営は、規約に沿って 67
- ③ 団結は働く者同志の「信頼」から 68
- ④ 団結は民主的な話し合いの中から生まれる 69
- ⑤ 働く者の立場に立って 69
- ⑥ 組合の運営に一人でも多くの組合員の結集を 70
- ⑦ 組合事務所は団結の“砦” 71
- ⑧ 判断に迷った時は、“原点”に戻る 71
- ⑨ “数”の力を生かした活動を追求する 72
- ⑩ 専門部活動の強化を 73
- ⑪ 運動の前進に欠かせない「方針」と「総括」 73
- ⑫ 民医連では、模範的な労使関係の確立を 74

- 13 政党と労働組合の関係を正しくとらえる 76

第4章 職場活動を考える 77

- 1 職場こそ組合活動の「原点」であり「拠点」 79
- 2 職場委員は、組合を映す鏡 79
- 3 職場活動は、組合員が組合を実感する場 80
- 4 職場委員は職場と執行部のパイプ役 81
- 5 職場委員は、困っている仲間の“お助けマン” 82
- 6 職場委員（役員）の選び方 83
- 7 要求の決定は、民主的でフェアな討議で 84
- 8 患者の処遇改善要求を 85
- 9 職場の管理者（職長）の二面性を知る 85
- 10 不当労働行為とは何か 86 11 労働委員会について 87
- 12 不当労働行為は“双葉”のうちに摘み取る 88
- 13 職場からたたかえる組織づくりを 88
- 14 職場要求と制度要求を統一した運動を 89
- 15 しっかりと職場に根を下ろした活動を 90

第5章 学習・教育・宣伝、調査・政策活動 91

- 1 学習は自らを高め、運動を前進させる 93
- 2 学習にはいろいろある 93
- 3 いきづまったら学習しなよ！ 94 4 議論と学習を統一して 94
- 5 学習と行動が生んだエネルギー 95
- 6 「患者さんによい食事を」の情熱が…… 96
- 7 参加者の気持ちが伝わる学習会 97
- 8 学習会のリーダーが人生の相談相手に 98
- 9 「自分が参加しなければ…」との腹構えで 99
- 10 組合での「教育」 99 11 組合と宣伝活動 100

- 12 「組合ニュース」づくりのポイント 101
- 13 輝く日刊『ひとみ』10,000号 102
- 14 経営側の「扇動」に負けないで 104
- 15 調査活動の位置づけを高める 105 16 科学性を追求する 106
- 17 組合としての政策活動を強めよう 107

第6章 会議や行事を成功させるために 109

- 1 「組合の会議とは何か」を共通認識に 111
- 2 目的に応じた会議の仕方を 111 3 会議の成功は準備しだい 112
- 4 会議の日程と時間 112 5 民主的な討議を心がける 113
- 6 「議長」のリーダーシップ 114
- 7 議長と提案者の任務は分担する 114
- 8 議論は“団結と統一”を図る方向で 115
- 9 黙っているのは「日和見」 116 10 「話し方」のポイント 117
- 11 会議ではエチケットを守る 118
- 12 会議運営のチェックポイント 119
- 13 りんごの味は、かじってみなければ…… 120
- 14 集まりが悪い場合は分析と対策を 121

第7章 たたかいと運動のポイント 123

- 1 賃金改善のたたかい 125 2 医療を守るたたかい 129
- 3 看護職員や介護職員の増員闘争 132
- 4 業務委託反対のたたかい 136
- 5 労働者と労働組合の権利を守るたたかい 137
- 6 医療労働運動の未来を拓く「医療研」運動 138
- 7 労働安全衛生活動 144 8 平和を守るたたかい 151
- 9 原発廃止、食と環境を守る運動の強化 152

第8章 「たたかう」ということ 155

- ① 組合の「たたかい」は、容易ではない 157
- ② 敗北を恐れてはならない 157 ③ 組合の力の源泉 158
- ④ 「職場」を基礎にたたかう 159
- ⑤ なんといっても、組合の主体的力量 160
- ⑥ 断固たたかうという強い意志を 161
- ⑦ 上部団体と、より積極的な“共闘”を 162
- ⑧ たたかいの目的と、戦術を明確にする 162
- ⑨ 勇気を持つこと 163 ⑩ 勝敗は「紙一重」、ねばりつよく 164
- ⑪ 勝利を切り開いた“7人の侍”たち 165
- ⑫ たたかいは「正攻法」が原則 166
- ⑬ 「大義」を掲げて 167 ⑭ 情報の集中と共有を 167
- ⑮ 「請負主義」と「お任せ」は双方に責任 168

第9章 団体交渉の位置づけと進め方 169

- ① 団体交渉権は憲法で保障されたもの 171
- ② 団体交渉は労使対等の姿勢で堂々と 171
- ③ 団体交渉は経営者にお願いする場ではない 172
- ④ 団体交渉の「ルール」に惑わされない 173
- ⑤ 実質的な団交拒否を許さない 173
- ⑥ 不誠実団交は団交拒否と同じ 174
- ⑦ 団交と大衆行動を統一したたたかいを 176
- ⑧ 交渉では主導権をとろう 177
- ⑨ 団交内容のシミュレーションを 177
- ⑩ 法に沿った正常な労使関係づくりを 178
- ⑪ 相手の主張の矛盾を明らかにする 178
- ⑫ 団交の議論はこちらの土俵で 179

- 13 団交も「直球」で勝負できるように 180
- 14 「経営が大変」を鵜呑みにせず分析を 180
- 15 詳しい資料の提出を求める 181
- 16 相手のしぐさや表情の観察も 182
- 17 時には、上部組織の団交参加も 182
- 18 交渉内容の記録を 183

第 10 章 ストライキについて 185

- 1 ストライキは労働者の「権利」 187
- 2 ストライキは憲法が保障する権利 187
- 3 ストライキを背景にしてこそ「対等」 189
- 4 ストライキの回避は経営者の責務 190
- 5 ストライキは患者・住民の支援の中で 190
- 6 ストライキには万全の準備を 191
- 7 争議予告通知を忘れずに 192
- 8 保安体制の責任は経営（使用者）側にある 193
- 9 具体的な保安体制は組合主導で交渉を 194

第 11 章 組織の拡大と強化 197

- 1 組織強化は三つの視点で 199
- 2 組織拡大は陣地戦、粘り強く 199
- 3 新人歓迎会は、同年代の感性で 200
- 4 厳しい労務管理のもとでも連続拡大 201
- 5 積極的に非正規労働者の組織化を 202
- 6 下請・派遣労働者の組織化と労働条件改善 203
- 7 本腰を入れて介護労働者の組織化を 204
- 8 「役員づくり」は組合の重要な課題 205
- 9 組合費の必要性と用途を詳しく説明する 205

- 10 質的強化への五つの習慣を 206
- 11 ホームページなどの活用を 207
- 12 自主的な青年のエネルギーを組合活動に 208
- 13 組合活動の厚みを増す女性部活動 209
- 14 ダイナミックな未組織の組織化を 210
- 15 運動の前進は医療産業別統一闘争の強化から 211
- 16 専従者の位置づけを明確に 211
- 17 プロの専従者（プロセン）を育てよう 212
- 18 「七人の侍」は短期決戦、「プロセン」は長期戦 213
- 19 専従者は組合の貴重な“財産” 214

第12章 組合役員の心がけとリーダーシップ 215

- 1 真正面から向き合う 217 2 組合役員10の留意点 217
- 3 “勇気”のある役員に 218
- 4 組合役員は、「月光仮面」のような人 219
- 5 「逆説の十カ条」をもう一度読んで見る 220
- 6 組合員から信頼される役員に 221
- 7 「具体的な問題を具体的に解決する力を磨く」 221
- 8 実務能力を高める 222
- 9 役員にとって「学習」は必修科目 223
- 10 背中に筋金の入ったぶれない役員に 223
- 11 他組織と違う組合役員のリーダーシップ 224
- 12 リーダーシップを養うために 225
- 13 “一人ひとりを生かす” リーダーシップを 226
- 14 「できない」「知らない」は専従者の禁句 227
- 15 組合の主体的力量強化へ真摯な話し合いを 227

補章 役員からのエール	229
職場の仲間を大切にできる人間関係を	山本 隆幸 (北海道) 231
人間は信頼に足るものだ	奥田 聡 (北海道) 231
共感し、支え合える仲間と共に	松田加寿美 (北海道) 232
「本質」を見抜く力を	山本 公行 (青森県) 232
原点としてのヒューマニズム	神 牧人 (青森県) 233
労働運動は、やっぱりいいね!	成澤 廉子 (岩手県) 233
働きがいのある職場に	右田 郁夫 (岩手県) 234
いっぱい勉強して、主体性を身につけて	鈴木 土身 (秋田県) 234
目標に近づこうとするプロセスを大切に	森 茂 (秋田県) 235
“ぬるま湯的な運動”を乗り越えて	今井 敏彦 (山形県) 235
震災の中で、“仲間”を知る	府中 勝博 (宮城県) 236
要求で団結し、仲間を信頼する	斎藤 富春 (福島県) 236
「井の中の蛙」にならないで、外に出る努力を	田畑 恵子 (茨城県) 237
職場に足を運んで築く信頼	吉田 直弘 (埼玉県) 237
たたかう労働運動の再構築を	清水 豊 (山梨県) 238
若人は、楽しい交流で仲間をふやすこと	脇村 元夫 (千葉県) 238
仲間をつくり、信じ合える組合活動を	森上 恵子 (千葉県) 239
言いたいことが言い合える関係を	植木真理子 (神奈川県) 239
続けてこれたのは仲間がいたから	瀬川 好夫 (神奈川県) 240
「みんな違って、みんないい」、明るく楽しく	坂井希美子 (新潟県) 240
現場の声を要求にしてたたかいへ	塩谷 義夫 (新潟県) 241
みんなの意見を聞いて	斎藤 正一 (群馬県) 241
「心・技・体」の統一と、バランスを	渡辺 一信 (長野県) 242
労働組合はすばらしい組織	高橋 博 (東京都) 242
患者さんと地域住民の連帯を	宮本 武子 (東京都) 243
なかまに励まされて	吉川はま子 (東京都) 243

組合活動の経験が、自分の生きる力に	柳 美智子 (東京都)	244
組合活動の柱に「研究」運動の視点を	大泉 幸二 (東京都)	244
定年まで役員が続けられた源は学習	畠山 久夫 (東京都)	245
家庭円満で、健康な心身を心がけて	小林 久子 (東京都)	245
「正しいことぐらい強いものはない」	米沢 哲 (東京都)	246
組織は感情と規律ある人間の集団	濱田 實 (東京都)	246
まずは、行動すること	山中 尚史 (石川県)	247
人間的な信頼関係を培うこと	小島 克己 (岐阜県)	247
しっかり父を見ていた娘	大浦 義憲 (富山県)	248
貴重な経験を得た組合専従	河原 一成 (静岡県)	248
組合は職場の家族・親族	渡邊 一 (愛知県)	249
チャレンジ精神を育んだ組合活動	北村 善昭 (福井県)	249
いつも、どこかは元気	山崎 直幸 (奈良県)	250
常に、『仲間を増やす』という観点を	藤田 進 (京都府)	250
役員であったからこそ働き続けられた	黒田 京子 (京都府)	251
広く、多くの仲間とのつながりを	染原 剛 (大阪府)	251
学ぶことを忘れずに	大谷 吉晴 (兵庫県)	252
地域での積極的な交流を	伊原 潔 (岡山県)	252
疎外感を乗り越えて	藤井みな子 (広島県)	253
気の弱かった私が……	植木 俊郎 (広島県)	253
協力してくれる仲間を多くつくること	有田 周二 (島根県)	254
組合運動と共に専門職としての向上も	山崎 定次 (山口県)	254
大胆に、そして組合員と共に慎重に	白濱 勉 (徳島県)	255
労働組合の存在を大切に	米本 武文 (香川県)	255
代理ではたたかわない	小池 和美 (香川県)	256
患者さんへの思いが支えた組合運動	野村 広子 (高知県)	256
一番大切なのは人づくり	細川 初志 (高知県)	257
夢を追いかけ、学び・笑い・怒り……	横田 繁子 (愛媛県)	257

「原則的に、そして柔軟であれ」	日高 琢二 (福岡県)	258
共通の要求持つ仲間づくりを	野口 一典 (福岡県)	258
団結して、ねばり強くたたかえば道は開ける	和田 洋 (宮崎県)	259
本当の「医療人」を体感しよう！	溝口 一彦 (長崎県)	259
楽しく、ためになる、助け合う組合運動を	池田 康夫 (大分県)	260
まずは、「労働法」を知らせよう	田中 直光 (熊本県)	260
組合活動で得られた“宝物”	平良 行雄 (鹿児島)	261
学んで大いに動こう！	宮里 武志 (沖縄県)	261

資料及び参考文献 263

① 労働組合活動の 60 年を振り返って	柘植ついで子	265
② 戦後初の医療共闘——「医療」民主化全国会議	宇田川次保	269
③ 要求と方針だけでたかかった「病院スト」	仲 恭男	270
④ 白衣の胸に「赤いバラ」——看護職員の「二八闘争」	福島 富	271
⑤ 山梨勤医協再建へのたたかひの教訓		
山梨勤労者医療協会労働組合 (現、山梨民主医療機関労働組合)		272
⑥ 存在感ある労組めざす	福岡医療団労働組合	274
⑦ 『屈辱の敗北』を乗り越え、団結固めたストライキ	茨 城 美濃輪智博	276
⑧ 組合消滅の危機を乗り越えて	和歌山 坪井 良介	277
⑨ 医療労働運動史 (略表)		278
⑩ 現在の労働組合の組織図 (略図)		284
参考文献		285

写真提供 写真説明で、特に明記していないものは、「日本医労連たたかひの 50 年」、「東京医労連 30 年の歩み」、「東京医労連 50 年の歩み」、山梨民主医療機関労働組合「40 年のあゆみ」、日本医労連機関紙「医療労働」、「全医労 30 年の歩み」、「全医労 50 年のたたかひ」、編者所有のものなどより活用しました。

紹介 労働組合の立場で医療・介護施設の経営分析——
医療介護分析情報センター (電話：03-3688-8401)